会派みらい政務調査報告
地域の価値を活かす

~行政のイノベーション~

はじめに

「今年度の会派の活動方針」

【政策的課題】

~リニア時代の交流に向けて~

地域資源を生かした行政のチャレンジ

1. 視察地(西九州)



- 2. 視察先
- ・ 唐津市 「コスメティック産業課」 **化粧品ビジネス**

•佐世保市「移住応援」

大胆な政策

·長崎市 「中心市街地とMICE」

激変する交通網への対応

共通テーマ 役Ff力i ここまで 730?

唐津市 コスメティック産業課

★コスメティック

化粧品

唐津市が推進する「コスメティック構想」

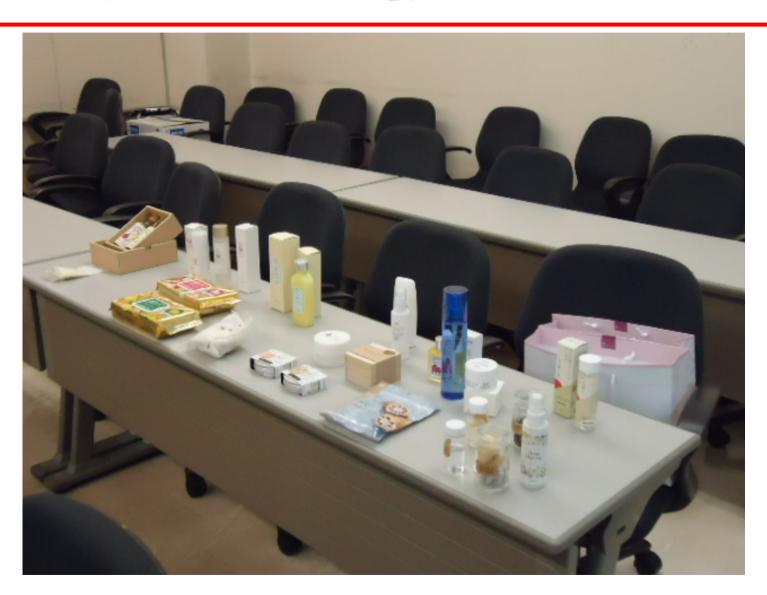
・全国でも前例のない、化粧品産業の集積プロジェクト。コスメの本場フランスと連携し、化粧品原料の開発による農林水産業の活性化、グローバル展開支援などを推進。

国際的クラスターの創造を目指す。

課長 八島大三 氏



手がける化粧品の一部



ジャパン・コスメティックセンター

化粧品の輸入代行・分析を行う企業が唐津市で操業 2006年 化粧品OEM企業が唐津市に工場設立 2012年 2013年

フランス・コスメティック協会と唐津市が協定締結 「ジャパン・コスメティックセンター」設立

- ・地方創生のモデル事業(官民共同PJ)
- ·佐賀県、唐津市、玄海町で、年間 8,400万円拠出
- •所在地 唐津市
- 会員 192社(全国から) 唐津市の20社は、2018年 の売上は120億円。数年後の目標は売上200億円、 雇用500人
- ◆事業活動 国際取引の支援、製品開発、販路開拓、原料開発 の支援など

(一社)

ジャパン・コスメティックセンター

唐津の地産素材の活用 (原料開発の支援)

- ・ツバキ(石鹸)、白イチゴ(スナック)、唐津茶・酒粕(化粧オイルな)ど、80品目の商品を開発!
- ・ミカンは、摘果果実・耕作放置畑から化粧品に商品化
- 佐賀大学農学部との連携で、天然化粧品原の研究、商品化

コスメティック構想まとめ

1視野を広く

- ◆企業の国際的なネットワークに目をつける (きっかけ)
- ◆唐津から輸出を実現する (商談会等を通じた交流促進)
- ◆地元を越えた産学連携 (西九州の14大学と連携)

コスメティック構想まとめ

2 地産素材の活用

- ◆素材を幅広い商品化に (持続的な素材活用)
- ◆地域とのコミュニケーション (商品に込める地域の思い)
- ◆商談会への取り組み (地域原料・商品の販路拡大)

コスメティック構想まとめ 3スペシャリストの行政(マン)

- ◆官民共同PJの法人の事務局体制 (行政からの人材派遣)
- ◆キーマンの養成 (事務局長に市役所職員が7年在籍)
- ◆新たな産業育成への行政の役割 (補助支援事業からの転換)

佐世保市「移住サポート」



させぼ移住サポートスラザ

移住・定住は「させぼ移住サポートプラザ」が起点

「住まい」「仕事」「その他(奨学金、若者支援ほか)」などの様々な情報を提供する市の総合窓口

させぼ移住サポートプラザ





サポートプラザでは、 ゆっくりとくつろぎながら 相談ができる オシャレカフェのような空間

させぼ移住サポートプラザ



サポートプラザ長 ▲ 森 健雄 氏

たった1泊の移住者

させぼ移住サポートプラザ

- -プラザ設置以前の市役所デスクでの実績は、S28年ベースで32世帯60名であったが、S29年プラザ設置後は、その3倍、81世帯171人に増加。30年には111世帯231人にまで進展し、40代以下が80%(内訳ではUターン80%・Iターン20%)
- ・各課の連携が特徴的であり、情報の横通しが出来る体制と専門スタッフ9名による情報発信も要因。
- ・支援策による定住にかかる費用対効果も200~300万円/世帯と掛かるものの、定住一人あたり240万円の効果額とすると、経済効果は一目瞭然と言え、この他に自治体の力として人口力も合わせれば定住成果が大きいとのこと。
- ・支援策は多様できめ細かく手厚いように思え、移住希望者の ニーズをよく把握し大胆な政策・制度を採っている。

「させぼ移住サポートプラザ」まとめ

- 移住政策の要はその土地の環境や移住を説明する人の熱意
- ・移住希望者のことを考えた政策や説明文書を備えたサポートセンターを、<mark>役所とは別のところ</mark>に構えていることも重要(土日にも立ち寄れるようになり、移住者への相談場所として適切)
- ・移住者の町内会の加入率が90%超。移住に関してのYES・NO チャートに支援内容とのリンクが明確に謳われている。
- 移住希望者の要求が、どの支援に該当するのかが解りやすく 作成されていて、「住む」「働く」の支援も手厚く設定されている。
- ・移住に掛かる経費、賃貸住宅に対する入居支援金、新築・改修補助金、就業助成金、奨学金返還サポート制度、東京圏からの移住者に支援金、実家増改築補助金など充実している。

長崎市「まちぶらPJ+MICE」



大型船の着くまち長崎

長崎市役所

「まちぶらるロジェクト」

「まちぶらかPJ」とは・・・・

九州新幹線西九州ルートの着工認可や国際船の受け入れ体制の強化に伴い、長崎駅周辺が「陸の玄関口」として、松が枝周辺が「海の玄関口」として整備が進もうとする中、長崎の「まちなか」も、これまで以上に魅力に磨きをかけて賑わいを高める必要がある。

「まちなか」の軸を中心とした5つのエリアの魅力の顕在化や、 回遊性を促す今後10年間の取組みを「まちぶらプロジェクト」と して取りまとめ、平成25年度から本格的にハード・ソフト両面か ら整備を進めている。

「まちぶらるロジェクト」

◆計画の構成

1)エリアの魅力づくり

各エリアにおいて、まちづくりの方向性を掲げる。

2)軸づくり

「まちなか軸」を基軸としてエリア間の回遊性を高める環境の整備。

3)地域力によるまちづくり

地域や市民自らが多様な組織と連携を図りなが ら、まちを守り、 育て、創るために行動し、その集積がまちなかを支えるような地域 力や市民力を結集する取り組みを推進。

長崎市「MICE構想」



MICE 完成予想図

MICE(マイス) とは

企業等の会議(Meeting)、企業等の行う報奨・研修旅行(Incentive Travel)、国際機関・団体、学会等が行う国際会議(Convention)、展示会・見本市、イベント(Exhibition/Event)の頭文字のことであり、多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントなどの総称、およびその施設群。

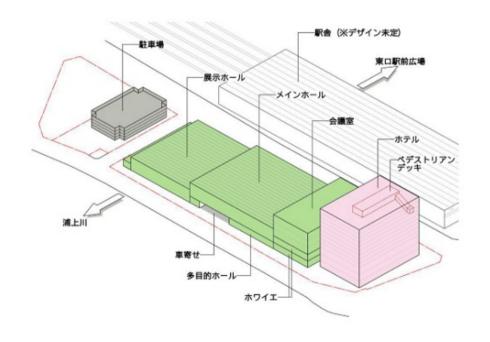
飯田市においては「まちなかMICE」とする中心市街地への設置 提案が、まちづくり団体の「南信州アルプスフォーラム」から市 に提起されている。

長崎市「MICE構想」

MICE 「長崎市交流拠点施設」 長崎初の本格的コンベンション施設 2021年11月 OPEN!(予定)

長崎駅西側の交流拠点施設用地に、国内外から多くの来訪者を呼び込むとともに市民交流を促進するMICE施設、都市ブランドの向上を図るホテルと、地域の賑わいと活力を生み出す民間収益施設を整備するもの(敷地面積24,160平方メートル)

長崎市「MICE 構想」



- -メインホール(3,000㎡)
- ・展示ホール(3,000㎡)
- •多目的ホール(1,500㎡
- •会議室(計3,000㎡)
- •駐車場(300台)
- ホテル(200~300室、 ヒルトンホテル)

長崎市「MICE 構想」

会派みらいの視察当日(2019年8月2日)に起工式が挙行された。

<u>公設民営</u>

PFI事業として実施される。九電エグループが設計、建設を行った後、所有権を長崎市に移転。20年の事業期間(2021年11月~41年10月を予定)で、九電エグループが独立採算で施設の運営と維持管理を行う。

結構もめている

2018年12月議会において、住民グループが直接請求した住民投票条例制定案について、長崎市議会は14日の本会議で反対25、賛成12の反対多数で否決した。

長崎市「まちぶらPJ・MICE構想」 まとめ

- •「まちぶらPJ」は、5つのゾーンごとに計画的に活性化が図られ 先が見えている感じがした。
- MICE(交流施設)が中心商店街の活性化につながることを祈るが、人口41万人の大都市ゆえか、二つの事業の関連性、回遊性は感じられない。
- •MICEを含めた大型事業が重なっており、財政的な心配がある。
- ・新しい文化と長崎のもつ歴史・文化とをどのように融合させているいは、現在の「まちぶらプロジェクト」には想定されていない様に思われる。守るべきもの(まちぶらPJ)、新たに取り入れるもの(MICE)を、双方を見極め、関連性を活かす視点が欠かせないと、あらためて感じる。

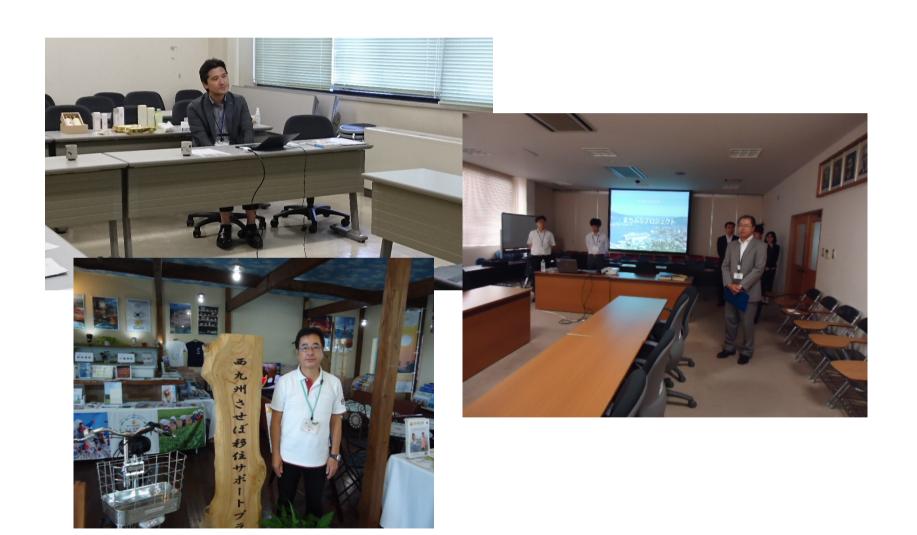




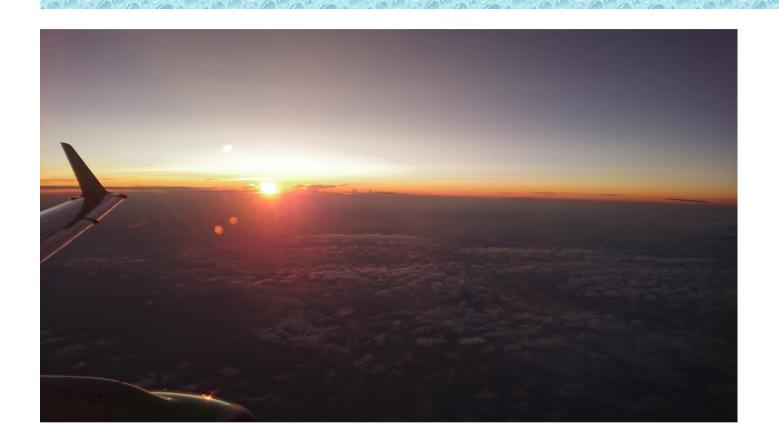




今回 お世話になったみなさん



ご清聴ありがとうございました



会派みらい

